

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
児童発達支援 ゆうゆう牧場ホーシーセンター		R8年 2月 20日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		乗馬プログラムがメインであり、安全に配慮した十分な職員数を確保している	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4			こども達が安全に過ごせるよう、危険個所のないよう見回り・整備を継続していく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		自然に囲まれた環境で、のびのびと過ごせる空間になっている 室外に子どもに合わせた手洗い場を設置	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個室を設けており、本人が希望した時にはいつでも利用できるような環境を整えている	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	毎年、各自で目標設定と具体的な取り組みについて考える機会を設けている	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		年1回の保護者アンケート、従業員による自己評価、今年度より、その結果をふまえて、事業所の強みと弱みについて考える機会を設定	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		馬スタッフがメインとなり、意見を交換できる場として月一回の馬会議を行っている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		外部研修においては、必要と思われる研修は可能な限り受講している また、新人研修等の内部研修もその都度行うこととしている	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPに公開	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		相談支援事業所からの情報をもとに、保護者やその家族と面談を行い、また、直接こどもの様子を見た上で作成している	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		毎月、ケース会議を行い、職員間で意見交換し支援内容について検討している	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員間で意見を出し合いプログラム作成に当たっている	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		乗馬プログラムがメインだが、馬のブラッシング、馬房掃除、馬の他、犬・猫との触れ合い等を取り入れており、こどもが飽きないように工夫をしている	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		こどもの特性や成長に合わせたプログラムを考えている 特に発達では小集団での活動がスムーズにできるような支援を行っている	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝のミーティングで伝達	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		気付いた点は、その日のうちに伝達するが、翌日のミーティング等で前日の振り返りを行っている	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		乗馬の様子が詳しくわかるように、また乗馬を通して児童の変化が見てとれるような独自の記録フォームを使用している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		毎月、ケース会議を行い、対象児童に関して職員間で意見交換し支援内容について検討している	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児童発達支援管理者か、保育所等訪問支援の担当職員など、その子の支援に多く関わっている職員が参画するようにしている	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		日々の送迎時や電話での情報交換・情報共有の他に利用児の多いこども園とは、定期的に会議を行い、情報交換や統一した支援について検討している	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2		現行、こちらからの働きかけはしておらず必要な際に行うようにしている
	28 (28～30は、センターのみ回答)				
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3	1		児童発達支援センターの役割を再認識していく必要性を感じている
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4		今年度は心理カウンセラー、馬の療育の講師による研修の機会を持った また、馬の領域の学会等にも参加	
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	1		
	31 (31は、事業所のみ回答)				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		乗馬会を開催することで交流を行った	
33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			電話やLINE等のオンラインでの伝達が多いため、対面での伝達の間を多く設けていきたい	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1			
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		初回面談で行っている	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1		
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1	乗馬会を開き、保護者同士の交流の場を設定している	乗馬だけではなく、保護者用のプログラムを考える
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月に1回お便りにて発信 HPも随時更新	個人情報取り扱いの観点から難しい一面もあるため慎重に扱っていく必要がある

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		都度、注意喚起を行い、特に新しい職員には具体的に説明を行うことにしている	今後も引き続き十分に留意していく
	43 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		ホワイトボードや絵カードなど、可視化することで情報を伝達する工夫を行っている	
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1		
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			職員間では周知されているが家族への周知については不足していると思われるため今後改善していく
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		初回面談で詳しく聞くようにしている	
	48 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			現在、児童発達支援利用児童への食べ物の提供は行っていないが、必要な際は対応していく
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			定期的な見直しを行っていく
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			家族への周知は改善の余地があるため、今後、定期的に知らせていきたい
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットはその都度報告書を作成・状況共有している	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		必ず年1回は虐待防止のための研修を行っている	
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		現在、身体拘束が必要な児童はいない	いつでも臨機応変に対応できるような体制を整えていく